

「Chosun Online の記事は1週間で見れなくなりますので、以下のように引用させていただきます、ご紹介します」

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

<http://www.chosunonline.com/news/20091229000033>

●原発輸出:UAE の次狙え、海外原発市場開拓で総力戦(上)

斗山重工業で原子力事業を統括する金泰宇(キム・テウ)副社長(62)は、アラブ首長国連邦(UAE)における400億ドル(約3兆6600億円)規模の原発事業者発表を控え、緊張して眠れない日が続いたという。同社は韓国電力公社主導のコンソーシアムで原子炉、蒸気発生器など主要設備の製作を担当している。受注が確定してから一夜明けた28日、金副社長は「まずは一息だが、本番はこれからだ」と気を引き締めた。

UAEでの原発受注を機に、コンソーシアムに参加した企業だけでなく、建設、重工業分野の各社が1兆ドル規模といわれる世界の原発市場で争奪戦を繰り広げている。世界原子力協会(WNA)によると、世界では2030年までに原発430基が建設される見通しだ。

■UAE 原発受注関連株、軒並みストップ高

UAEでの原発施工を担当する現代建設では、受注発表翌日の28日、労組が全部署にお祝いのケーキを振舞った。サムスン物産の建設部門も祝賀ムードに包まれた。同日の斗山重工業の株価は先週末より1万1000ウォン高のストップ高を記録し、原発設計を担当する韓電技術、原発のメンテナンスを担当する韓電 KPS もストップ高を付けた。韓電、サムスン物産、現代建設などコンソーシアム構成企業の株価も軒並み急騰した。証券市場関係者は「原発受注でコンソーシアム構成企業が恩恵を受けるのは間違いなく、それが株価に反映された」と指摘した。

しかし、今回コンソーシアムに参加した企業の祝賀ムードも通過点にすぎない。UAEでの成功を土台にして、新たな市場開拓に乗り出さなければならないからだ。各社とも海外原発市場に攻撃的に進出するため、組織拡大、増員などを進めている。

UAEから帰国した現代建設の金重謙(キム・ジュンギョム)社長は「電力事業本部所属の原発チームを単独の事業本部として独立させ、国内外での原発受注能力を最大化したい」と話した。これまで内需中心の組織だった韓電、韓国水力原子力も輸出業務を担当する組織、人員を補強する予定だ。今回コンソーシアムを主導する韓電は、国内発電事業から海外事業へと重点をシフトしている。韓電は国内売上高の1.5%の

規模にすぎない海外売上高を 2020 年には 32%に当たる 27 兆ウォン(約 2 兆 1200 億円)まで引き上げる計画を立てている。その計画の中心を担うのが原発輸出だ。

韓国水力原子力は来年、現代建設、大宇建設と共同で、ルーマニアで原発受注を目指す。韓国水力原子力の関係者は「来年にはフィンランドでも入札提案書の募集が予定されている」と話した。

斗山重工業は昨年、米国で新規原発プロジェクトの主要設備を受注したほか、中国核工業総公司(CNNC)と中国国内における原発事業提携に向けた覚書を交わした。斗山関係者は「世界最大の原発市場である中国、米国の新規原発市場進出に向けた足場は築かれた」と述べた。